

DEBUT • BEGINNING

09

09

MAY

Ferdinando Frega

GILLETTE：5月

外さない月

私のような人間は、魔術師も魔女も信じない。だが私のような人間は、彼らに近づかず、敬意を払う—良識の一種であり、基本的な生存本能である。

それから、偶然というものがある。それが同じ時期に積み重なると、数がそれを収束に変える。人間は昔から、それに特別な言葉をあててきた。運命、と。

私の運命は61年のあいだ、5月という月に形をとりつづけているらしい。そして毎回、何かを—あるいは一連の出来事を—携えて現れ、私が何者であるかを思い出させるのを決して忘れない。

5月30日は私の聖名祝日、聖フェルディナンドの日だ。キリスト教の暦が私に割り当てることにした贈り物である。だが、それは表面にすぎない。

51年前の5月7日は悲しい日だった。母方の祖父が死んだのだ。私が深く慕っていた祖父が。数年後の5月6日、祖母がそのあとを追った。

5月はまた、私が腹を開かれ、腸から7つのカルチノイド腫瘍を取り除かれた月でもある。余命、30日。たった20年前のことだ。

5月はまた、私の裁判の月でもある—刑事・行政あわせて15件、無罪15件。事実が存在しないからだ。そして確かめたと主張した者こそ、何ひとつ確かめたことのない者だった。

5月はまた、1993年、私の結婚生活の最初の1週間でもあった。教会が日取りを7日早めさせたのだ。聖母の月には誰も結婚しないから、と。

父が地上の体を離れたのも5月で、自分の父親に会いに行った。40年勤めたGilletteを父が去ったのも、この月だった。

1993年5月、私はマネージャーになった。1996年5月、トップマネージャーに。

そして5月は春と重なっていた—愛の季節、私にとってはフルタイムの。この月の何かが、私を特別にした。外務省に苦情を申し立てた者はひとりもない。私のサービスはつねに国連基準に適合していた。

私は自分の出版帝国に取り組んでいた。2つのサイトを公開し、両方とも手直しする。ひとつ目はリンク230本。ふたつ目はたった14本。プラットフォームは何もかも一瞬で呑み込む。20日後、両方のサイトが閉鎖される。

Blazeで販促キャンペーンを買う—投稿ひとつ、ページひとつだけ、世界へ向けた窓だ。WordPressの女性が35USDのクレジットを贈ってくれる。受け取ったのは、表示11万5000回、クリック114回、そして通知がひとつ。見積もりが予想を42%上回りました。

自分の物語から、Gilletteナラティブの自伝的な本を5冊つくる。24時間後には出版され、Gilletteの検索クエリのなかにインデックスされている。上位だ。

出版物を2,432冊の電子書籍から200冊に削る。225言語から5言語に。325ページから131ページに。5つの言語を残し、イタリア語を—私自身の出自を—消す。完全に自覚したうえで、ためらいなく。

私の祝い日は近いが、贈り物はもう自分に贈った。人は言うだろう、私はこれまでずっとそうであったとおりの人間だと—思いもよらない人間、だと。

そしてすべては、いつも、この月に起こる。61年のあいだ。

書記ナンド